

「情報公開文書」

研究課題名:高齢者閉塞性大腸癌手術の手術治療成績の検討

1. 研究の対象

2014年～2023年に手術を施行した閉塞性大腸癌手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

高齢の大腸癌患者、特に肺気腫、肝硬変、糖尿病、ステロイド長期服用者、透析状態などの重度全身併存疾患を有する大腸癌患者では、一旦合併症を併発するとQOLの顕著な低下や手術死亡率の上昇をきたしうる点が大きな課題です。そのため、臨床現場では手術術式や人工肛門造設の選択に迷う機会も多くあります。当、横浜総合病院消化器センターは地域医療に密着した施設で高齢の患者様を診療することが非常に多い病院です。多くの大学病院や公的病院の大腸癌手術患者の平均年齢は60歳台後半であることが多いのですが、当院では平均76歳です。閉塞性大腸癌とは大腸癌が腸管を閉塞した状態で発見される大腸癌で、緊急で腸管の減圧処置または手術を行わないと生命の危機に瀕する高度進行癌です。ご高齢の患者さんでは閉塞性大腸癌で発見されることも非常に多く、この疾患に対する治療方法は減圧方法もしくは手術により合併症や生存に寄与する予後に大きく影響します。高齢の患者様にたいして、より適した治療選択のあり方について研究することは重要なことであると考えています。

今回研究させていただきたいのは、80歳以上の高齢者閉塞性大腸癌に対する手術の診療状況を調査することです。手術時に80歳以上のと80歳未満の患者様を比較する後方視的研究を行わせていただきます。研究対象期間は2014年～2023年に手術を施行した大腸癌手術を受けていただいた患者さんです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

研究に用いる情報は患者さんの臨床データ(性別、イニシャル、生年月日、手術時の年齢、病歴、病理組織学的検査所見、等)、手術データ(手術日、手術時間、出血量、輸血の有無、術者)、術後成績(合併症の有無・内容・治療、術後在院期間、生存率、再発状況、予後等)を85歳以上と85歳未満で比較検討を行います。

この研究は横浜総合病院消化器センター外科内で行い、資料を利用できる者は消化器外科医員の範囲に限定されます。また患者さん個人を特定しうる情報は匿名化を行い個人を特定を不可能とします。

解析した結果は全国規模の学術集会で発表、もしくは学術雑誌に論文発表する予定です。

4. お問い合わせ先

試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者:

〒225-0025

神奈川県横浜市青葉区鉄町2201-5

横浜総合病院消化器センター

貴島 孝

電話:045-902-0001

FAX:045-904-3434

-----以上